

サムエル後書

第一章一サウルの死し後ダビデ、アマレク人を撃てかへりチク
 ラグに二日とどまりけるが三日に及びて一個の人其衣を裂
 き頭に土をかむりて陣營より即ちサウルの所より來りダビデの
 許にいたり地にふして拜せり三ダビデかれにいひけるは汝いづ
 くより來れるやかれダビデにいひけるはイスラエルの陣營より
 逃れきたれり四ダビデかれにいひけるは事いかん請ふ我につげ
 よかれこたへけるは民戰に敗れて逃げ民おほく仆れて死りま
 たサウルと其子ヨナタンも死り五ダビデ其おのれにつぐる少者
 にいひけるは汝いかにしてサウルと其子ヨナタンの死たるをし
 るや六ダビデにつぐる少者いひけるは我はからずもギルボア山
 へのぼり見しにサウル其槍に倚かかりをりて戰車と騎兵かれ
 にせめよらんとせり七彼つしるにふりむきて我を見我をよびた
 れば我こたへて我ここにありといふ八かれ我に汝は誰なるやと
 いひければ我かれにこたへて我はアマレク人なりといふ九かれ
 また我にいひけるはわが身いたく攀ば請ふ我つへのりて我を
 こるせわが生命なほわれの中にまつたければなりと一〇我すな
 はちかれの上へのりてかれを殺したり其は我かれが既に仆て生
 ることをえざるをしりたればなりしかして我その首にありし冕
 とその腕にありし釧を取りてこれをわが主に携へきたれり二
 是においてダビデおのれの衣を執てこれを裂けりまた彼ととも

にある者も皆しかせり二彼等サウルのためまた其子ヨナタン
 のためまたエホバの民のためイスラエルの家のために哭きかな
 しみて晩まで食を斷り其は彼ら劍にたふれたればなり三ダビ
 デおのれに告し少者にいひけるは汝は何處の者なるやかれこ
 たへけるは我は他國の人すなはちアマレク人なりと四ダビデ
 かれにいひけるは汝なんぞ手をのばしてエホバの言そそぎし者
 をこるすことを畏ざりしやと五ダビデ一人の少者をよびてい
 ひけるは近よりてかれをこるせとすなはちかれをうちければ死
 り六ダビデかれにいひけるは汝の血は汝の首に歸せよ其は汝
 口づから我エホバのあぶらそそぎし者をこるせりといひて己に
 むかひて證をたつればなり七ダビデ悲歌をもてサウルと其
 子ヨナタンを吊ふ八ダビデ命じてこれをユダの族にをしへし
 む即ち弓の歌是なり是はヤシル書に記さる一九イスラエルよ汝
 の榮耀は汝の崇邱に殺さる嗚呼勇士は仆れたるかな二〇此事を
 ガテに告るなかれアシケロンに傳るなかれ恐くはペリシテ
 人の女等喜ばん恐くは割禮を受ざる者の女等樂み祝はん二ギ
 ルボアの山よ願は汝の上に雨露降ることあらざれ亦供物の
 田園もあらざれ其は彼處に勇士の干葉らるればなり即ちサウル
 の干膏を沫がずして彼處に棄らる三殺せし者の血をのますし
 てヨナタンの弓は退かず勇士の脂を食すしてサウルの劍は空く
 歸らず三サウルとヨナタンは愛らしく樂げにして生死ともに
 離れず二人は驚よりも捷く獅子よりも強かりき四イスラエル

の女等よサウルのために哀けサウルは絳き衣をもて汝等を華麗に粧ひ金の飾を汝等の衣に着たり二五 嗚呼勇士は戦の中に仆れるかなヨナタン汝の崇 邱に殺されぬ二六 兄弟ヨナタンよ我汝のために悲慟む汝は大に我に樂き者なりき汝の我をいつくしめる愛は尋常ならず婦の愛にも勝りたり二七 嗚呼勇士は仆たるかな戦の具は失たるかな

第二章 一 このちダビデ、エホバに問ていひけるは我ユダのひとつの邑にのぼるべきやエホバかれにいひたまひけるはのぼれダビデいひけるは何處にのぼるべきやエホバいひたまひけるはヘブロンにのぼるべしと二タビデすなはち彼處にのぼれりその二人の妻エズレル人アヒノアムおよびカルメル人ナバルの妻なりしアビガルもともにのぼれり三タビデ其おのれとともにありし従者と其家族をことごとく將のぼりければ皆ヘブロンにすめり四時にユダの人々きたり彼處にてダビデに膏をそそぎてユダの家の王となせり 人々タビデにつけてサウルを葬りしはヤベシギレアデの人なりといひければ五タビデ使者をヤベシギレアデの人におくりてこれにいひけるは汝らこの厚意を汝らの主サウルにあらはしてかれを葬りたればねがはくは汝らエホバより福祉をえよ六 ねがはくはエホバ恩寵と眞實を汝等にしめしたまへ汝らこの事をなしたるにより我亦汝らに此恩恵をしめすなり七されば汝ら手をつよくして勇ましくなれ汝らの主サウルは死たり又ユダの家我に膏をそそぎて我をかれらの王と

なしたればなりと八 愛にサウルの軍の長ネルの子アブネル、サウルの子イシボセテを取りてこれをマナイムにみちびきわたり九 ギレアデとアシユリ人とエズレルとエフライムとベニヤミンとイスラエルの衆の王となせり一〇 サウルの子イシボセテはイスラエルの王となりし時四十歳にして二年のあひだ位にありしがユダの家はダビデにしたがへり一 一タビデのヘブロンにありてユダの家の王たりし日数は七年と六ヶ月なりき二 ネルの子アブネル及びサウルの子なるイシボセテの臣僕等マハナイムを出てギベオンに至れり三 セルヤの子ヨアブとダビデの臣僕もいでゆけり彼らギベオンの池の傍にて出會一方は池の此畔に一方は池の彼岸に坐す四 アブネル、ヨアブにいひけるはいざ少者をして起て我らのまへに戯れしめんヨアブいひけるは起しめんと五 サウルの子イシボセテに屬するベニヤミンの人其數十二人及びダビデの臣僕十二人起て前み六 おのおの其敵手の首を執へて劍を其敵手の脅に刺し斯して彼等俱に斃れたり是故に其處はヘルカテハヅリム（利劍の地）と稱らる即ちギベオンにあり七 此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの二人は死す八 此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの二人は死す九 此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの二人は死す一〇 此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの二人は死す

かれにいひけるは汝の右か左に轉向て少者の一人を擒へて其戎服を取れと然どアサヘル、アブネルをおふことを罷て外に向ふを肯せずニアブネルふたたびアサヘルにいふ汝我を追ふことをやめて外に向へ我なんぞ汝を地に撃ち仆すべけんや然せば我いかでかわが面を汝の兄ヨアブにむくべけんとニ然どもかれ外にむかふことをいなむによりアブネル槍の後銛をもてかれの腹を刺しければ槍その背後にいでたりかれ其處にたふれて立時に死り斯しかばアサヘルの仆れて死るところに來る者は皆たちどまれりニされどヨアブとアビシヤイはアブネルの後を追きたりしがギベオンの野の道傍にギアの前にあるアンマの山にいたれる時日晝ぬニベニヤミンの子孫アブネルにしたがひて集まり一隊となりてひとつの山の頂にたてりニ爰にアブネル、ヨアブをよびていひけるは刀劍豈永久にほろぼさんや汝其終りには怨恨を結ぶにいたるをしらざるや汝何時まで民に其兄弟を追ふことをやめてかへることを命ぜざるやニモヨアブいひけるは神は活く若し汝が言出さざりしならば民はおのそのきやうたい其兄弟を追はずして今晨のうちにさりゆきしならんとニハかくてヨアブ喇叭を吹きければ民皆たちどまりて再イストラエルの後を追はずまたかさねて戰はざりきニアブネルと其從者終夜アラバを経ゆきてヨルダンを濟りビテロンを通りてマハナイムに至れりニヨアブ、アブネルを追ふことをやめて歸り民をことごとく集めたるにダビデの臣僕十九人とアサヘル缺てをらざりき

三ニされどダビデの臣僕はベニヤミンとアブネルの從者二百六十人を撃ち殺せり三一人々アサヘルを取りあげてベテレヘムにある其父の墓に葬るヨアブと其從者は終夜ゆきて黎明にヘブロンにいたれり
第三章一サウルの家とダビデの家の間の戰爭久しかりしがダビデは益強くなりサウルの家はますます弱くなれりニヘブロンにてダビデに男子等生る其首出の子はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生るニ其次はギレアブといひてカルメル人ナバルの妻なりしアビガルより生る第三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女子マアカの子なり第四はアドニヤといひてハギテの子なり第五はシバテヤといひてアビタルの子なり第六はイテレヤムといひてダビデの妻エグラの子なり是等の子へブロンにてダビデに生るニサウルの家とダビデの家の間に戰爭ありし間アブネルは堅くサウルの家に荷擔り七嚮にサウル一人の妾を有り其名をリツパといふアヤの女なり爰にイシボセテ、アブネルにいひけるは汝何ぞわが父の妾に通じたるやハアブネル甚しくイシボセテの言を怒りていひけるは我今日汝の父サウルの家とその兄弟とその朋友に厚意をあらはし汝をダビデの手にわたさざるに汝今日婦人の過を擧て我を責む我あに犬の首ならんやユダにくみする者ならんや九神アブネルに斯なしまたかさねて斯なしまへエホバのダビデに誓ひたまひしごとく我かれに然なすべしニ即ち國をサウルの家よ

り移しダビデの位をダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルとユダの上にてんニイシボセテ、アブネルを恐れられたればかさねて一言も之にこたふるをえざりきニアブネルおのれの代に使者をダビデにつかはしていひけるは此地は誰の所有なるや又いひけるは汝我と契約を爲せ我力を汝に添へてイスラエルを悉く汝に歸せしめんニダビデいひけるは善し我汝と契約をなさん但し我一の事を汝に索む即ち汝來りてわが面を覲る時先づサウルの女ミカルを携きたらざれば我面を覲るを得じト

四ダビデ使者をサウルの子イシボセテに遣していひけるはわがペリシテ人の陽皮一百を以て聘たるわが妻ミカルを我に交すべしニイシボセテ人をつかはしてかれを其夫ライシの子パルテより取しかばニ六 其夫哭つて歩みて其後にしたがひて俱にバホルムにいたりしがアブネルかれに歸り往けといひければすなはち歸りぬニモアブネル、イスラエルの長老等と語りていひけるは汝ら前よりダビデを汝らの王となさんことを求め居たりニハされば今これをなすべし其はエホバ、ダビデに付て語りて我わが僕ダビデの手を以てわが民イスラエルをペリシテ人の手よりまたその諸の敵の手より救ひいださんといひたまひたればなりとニ九アブネル亦ベニヤミンの耳に語りしかしてアブネル自らイスラエルおよびベニヤミンの全家の善とおもふ所をへブロンにてダビデの耳に告んとて往りニ〇すなはちアブネル二十人をしたがへてへブロンにゆきてダビデの許にいたりければ

ダビデ、アブネルと其したがへる従者のために酒宴を設けたりニ

一アブネル、ダビデにいひけるは我起てゆきイスラエルをことごとくわが主王の所に集めて彼等に汝と契約を立しめ汝をして心の望む所の者をことごとく治むるにいたらしめんとは是においでダビデ、アブネルを歸してかれ安然に去りニ三時にダビデの臣僕およびヨアブ人の國を侵して歸り大なる掠取物を携へきたり然どアブネルはダビデとともにへブロンにはをらざりき其はダビデかれを歸してかれ安然に去りたればなりニ三ヨアブおよびとももありし軍兵皆かへりきたりしとき人々ヨアブに告ていひけるはネルの子アブネル王の所にきたりしが王かれを返してかれ安然にされりとニ四ヨアブ王に語りていひけるは汝何を爲したるやアブネル汝の所にきたりしに汝何故にかれを返して去ゆかしめしやニ五 汝ネルの子アブネルが汝を誑かさんとてきたり汝の出入を知りまた汝のすべて爲す所を知んために來りしを知るとニ六かくてヨアブ、ダビデの所より出來り使者をつかはしてアブネルを追しめたれば使者シラの井よりかれを將返れりされどダビデは知ざりきニモアブネル、へブロンに返りしかばヨアブ彼と密に語らんとてかれを門の内へ引きゆき其處にてその腹を刺てこれを殺し己の兄弟アサヘルを血をむくいたりニ

八其後ダビデ聞いていひけるは我と我國はネルの子アブネルの血につきてエホバのまへに永く罪あることなしニ九 其罪はヨアブの首と其父の全家に歸せよねがはくはヨアブの家には白濁を疾

ものか癩病人か杖に倚ものか劍に仆るものか食物に乏しき者
 か絶ゆることあらざれとヨアブとその弟アビシヤイのアブ
 ネルを殺したるは彼がギベオンにて戦陣のうちにおのれの
 兄弟アサヘルをころせしによりり三ダビデ、ヨアブおよびお
 のれとともにある民にいひけるは汝らの衣服を裂き麻の衣を着
 てアブネルのために哀哭くべしとダビデ王其棺にしたがふ三
 人衆アブネルをヘブロンに葬れり王誓をあげてアブネルの墓に
 哭き又民みな哭けり三王アブネルの爲に悲の歌を作りて云く
 アブネル如何にして愚なる人の如くに死けん三四汝の手は縛も
 あらず汝の足は鏈にも繋れざりしものを嗚呼汝は悪人のため
 に仆る人のごとくにたふれたり斯て民皆再びかれのために哭
 けり三五民みな日のあるうちにダビデにパンを食はしめんとて
 來りしにダビデ誓ひていひけるは若し日の没まへに我パンにて
 も何にても味ひなば神我にかくなし又重ねて斯なしたまへと三六
 民皆見て之を其目に善しとせり凡て王の爲すところの事は皆民
 の目に善と見えたり三七其日民すなはちイスラエル皆ネルの子
 アブネルを殺たるは王の所爲にあらざるを知れり三八王その
 臣僕にいひけるは今日一人の大將大人イスラエルに斃る汝ら
 これをしらざるや三九我は膏そそがれし王なれども今日尚弱し
 ゼルヤの子等なる此等の人我には制しがたしエホバ惡をおこな
 者に其惡に隨ひて報いたまはん

第四章一サウルの子はアブネルのヘブロンにて死たるを聞きし

しば其手弱くなりてイスラエルみな憂へたりニサウルの子隊
 長一人を有てり其一人をバアナといひ一人をレカブといふベ
 ニヤミンの支派なるベロテ人リンモンの子等なり其はベロテも
 亦ベニヤミンの中に數らるればなり三昔にベロテ人ギツタイム
 に逃遁れて今日にいたるまで彼處に旅人となりて止まる四サウ
 ルの子ヨナタンに跛足の子一人ありエズレルよりサウルとヨナ
 タンの事の報いたりし時には五歳なりき其乳媪かれを抱きて逃
 れたりしが急ぎ逃る時其子墮て跛者となれり其名をメピボセテ
 といふ五ベロテ人リンモンの子レカブとバアナゆきて日の熱き
 頃イシボセテの家にいたるにイシボセテ午睡し居たり六かれら
 麥を取らんとしいて家の中にいりきたりかれの腹を刺りしかし
 てレカブと其兄弟バアナ逃げざりぬ七彼等が家にいりしとき
 イシボセテは其寢室にありて床の上に寝たりかれら即ちこれを
 うちころしこれを誅りて其首級をとり終夜アラバの道をゆき
 てハイシボセテの首級をヘブロンにダビデの許に携へたりて
 王にいひけるは汝の生命を求めたる汝の敵サウルの子イシボセ
 テの首を視よエホバ今日我主なる王の仇をサウルと其裔に報い
 たまへりと九ダビデ、ベロテ人リンモンの子レカブと其兄弟バ
 アナに答へていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたま
 ひしエホバは生く○我は嘗て人の我に告て視よサウルは死
 りと言ひて自ら我に善き事を傳ふる者と思ひをりしを執てこれを
 チクラグに殺し其消息に報いたりニ一況や悪人の義人を其家

の床の上に殺したるをやされば我彼の血をながせる罪を汝らに報い汝らをこの地より絶ざるべけんやとニダビデ少者に命じければ少者かれらを殺して其手足を切離しへブロン池の上に懸たり又イシボセテの首を取りてへブロンにあるアブネルの墓に葬れり

第五章 爰にイスラエルの支派咸くへブロンにきたりダビデにいたりていひけるは視よ我儕は汝の骨肉なり三前にサウルが我儕の王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりきしかしてエホバ汝に汝わが民イスラエルを牧養はん汝イスラエルの君長とならんといひたまへりと三斯くイスラエルの長老皆へブロンにきたり王に詣りければダビデ王へブロンにてエホバのまへにかれらと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏を灑でイスラエルの王となす四ダビデは王となりし時三十歳にして四十年の間位に在き五 即ちへブロンにてユダを治むること七年と六箇月またエルサレムにてイスラエルとユダを全く治むること三十三年なり六茲に王其從者とともにエルサレムに往き其地の居民エブス人を攻んとすエブス人ダビデに語りていひけるは汝此に入ること能はざるべし反て盲者跛者汝を追はらんと是彼らダビデ此に入るあたはずと思へるなり七然るにダビデ、シオンの要害を取り是即ちダビデの城邑なり八ダビデ其日いひけるは誰にても水道にいたりてエブス人を撃ちまたダビデの心の惡める跛者と盲者を撃つ者は(首となし長となさん

(と是によりて人々盲者と跛者は家に入るべからずといひなせり九ダビデ其要害に住て之をダビデの城邑と名けたりまたダビデ、三口(城塞)より内の四方に建築をなせり〇かくてダビデはますます大に成りゆき且萬軍の神エホバこれと共にいませり二三口の王ヒラム使者をダビデに遣はして香柏および木匠と石工をおくれり彼らダビデの爲に家を建つニダビデ、エホバのかた己をたててイスラエルの王となしたまへるを曉りまたエホバの其民イスラエルのために其國を興したまひしを曉れり三ダビデ、へブロンより來りし後エルサレムの中よりまた妾と妻を納たれば男子女子またダビデに生る四エルサレムにて彼に生れたる者の名はかくのごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモンニ五イハル、エリシユア、ネベグ、ヤピアニ六エリシヤマ、エリアダ、エリバレテニ七爰に膏を沃いでダビデをイスラエルの王と爲し事べりシテ人に聞えければペリシテ人皆ダビデを獲んとて上るダビデ聞て要害に下れり八ペリシテ人臻りてレバインの谷に布き備たり九ダビデ、エホバに問ていひけるは我ペリシテ人にむかひて上るべきや汝かれらをわが手に付したまふやエホバ、ダビデにいひたまひけるは上れ我必ずペリシテ人を汝の手にわたさん〇ダビデ、バアルペラジムに至りかれら其所に撃ていひけるはエホバ水の破壊り出ることく我敵をわが前に破壊りたまへりと是故に其所の名をバアルペラジム(破壊の處)と呼ぶニ 彼處に彼等其偶像を遣たればダビデと其從者

これを取あげたり三ペリシテ人再び上りてレバイムの谷に布
 き備へたれば三ダビデ、エホバに問にエホバいひたまひけるは
 上るべからず彼等の後にまはりベカの樹の方より彼等を襲へ四
 汝ベカの樹の上に進行の音を聞ばすなけち突出づべし其時に
 はエホバ汝のまへにいでてペリシテ人の軍を撃たまふべけれ
 ばなりと三ダビデ、エホバのおのれに命じたまひしごとくなし
 ペリシテ人を撃てゲバよりガゼルにいたる

第六章一ダビデ再びイスラエルの選抜の兵士三萬人を悉く集む
 ニダビデ起ておのれと共にをる民とともにバアレユダに往て神
 の櫃を其處より昇上らんとす其櫃はケルビムのの上に坐したまふ
 萬軍のエホバの名をもて呼る三すなはち神の櫃を新しき車に載
 せて山にあるアビナダブの家より昇だせり四アビナダブの子ウ
 ザとアヒオ神の櫃を載たる其新しき車を御しアヒオは櫃のま
 へにゆけり五ダビデおよびイスラエルの全家琴と瑟と鼓と鈴と
 鏡鉞をもちて力を極め謡を歌ひてエホバのまへに躍踊れり六
 彼等がナコンの禾場にいたれる時ウザ手を神の櫃に伸してこれ
 を扶へたり其は牛振たればなり七エホバ、ウザにむかひて怒り
 を發し其誤謬のために彼を其處に撃ちたまひければ彼そこに神
 の櫃の傍に死ねり八エホバ、ウザを撃ちたまひしによりてダビ
 デ怒り其處をペレツウザ（ウザ撃）と呼り其名今日にいたる九
 其日ダビデ、エホバを畏れていひけるはエホバの櫃いかで我所
 にいたるべけんやと二ダビデ、エホバの櫃を己に移してダビデ

の城邑にいらしむるを好まず之を轉してガテ人オベデエドムの
 家にいたらしむ二エホバの櫃ガテ人オベデエドムの家に在る
 こと三月なりきエホバ、オベデエドムと其全家を恵みたまふ三
 エホバ神の櫃のためにオベデエドムの家と其所有を皆恵みたま
 ふといふ事ダビデ王に聞えければダビデゆきて喜樂をもて神の
 櫃をオベデエドムの家よりダビデの城邑に昇上れり三エホバ
 の櫃を昇者六步行（ゆき）たる時ダビデ牛と肥たる者を献げた
 り四ダビデ力を極めてエホバの前に踊躍れり時にダビデ布の
 エポデを着け居たり五ダビデおよびイスラエルの全家歡呼と
 喇叭の聲をもてエホバの櫃を昇のぼれり六神の櫃ダビデの
 城邑にいりし時サウルの女ミカル窺より窺ひてダビデ王のエ
 ホバのまへに舞躍るを見其心にダビデを蔑視む七人々エホバ
 の櫃を昇入れてこれをダビデが其爲に張たる天幕の中なる其所
 に置りしかしてダビデ燔祭と酬恩祭をエホバのまへに献げたり
 一八ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終し時萬軍のエホバの
 名を以て民を祝せり九また民の中即ちイスラエルの衆庶の中
 に男にも女にも俱にパン一箇肉一斤乾葡萄一塊を分ちあたへ
 たり斯て民皆おのおの其家にかへりぬ二爰にダビデ其家族を
 祝せんとて歸りしかばサウルの女ミカル、ダビデをいでむかへ
 ていひけるはイスラエルの王今日如何に威光ありしや自ら
 遊蕩者の其身を露すがごとく今日其臣僕の婢女のまへに其身
 を露したまへり三ダビデ、ミカルにいふ我はエホバのまへに

即ち汝の父よりもまたその全家よりも我を選びて我をエホバの民イスラエルの首長に命じたまへるエホバのまへに躍れり三我は此よりも尚鄙からんまたみづから賤しと思はん汝が語る婢女等とともにありて我は尊榮をえんと三是故にサウルの女ミカルは死ぬる日まで子あらざりき

第七章 王其家に住にいたり且エホバ其四方の敵を壊てかれを安らかならしめたまひし時二王預言者ナタンに云けるは視よ我は香柏の家に住む然ども神の櫃は幔幕の中にあり三ナタン王に云けるはエホバ汝と共に在せば往て凡て汝の心にあるところを爲せ四其夜エホバの言ナタンに臨みていはく五往てわが僕ダビデに言へエホバ斯く言ふ汝わがために我の住むべき家を建んとするや六我はイスラエルの子孫をエジプトより導き出せし時より今日にいたるまで家に住しことなくして但天幕と幕屋の中に歩み居たり七我イスラエルの子孫と共に凡て歩める處にて汝ら何故に我に香柏の家を建ざるやとわが命じてわが民イスラエルを牧養しめしイスラエルの士師の一人に一言も語りしことあるや八然ば汝わが僕ダビデに斯く言ふべし萬軍のエホバ斯く言ふ我汝を牧場より取り羊に隨ぶ所より取りてわが民イスラエルの首長となし九汝がすべて往くところにて汝と共にあり汝の諸の敵を汝の前より斷さりて地の上の大なる者の名のごとく汝に大なる名を得さしめたり一〇又我わが民イスラエルのために處を定めてかれらを植つけかれらをして自己の處に住て重

て動くことなからしめたり一 また惡人昔のごとくまたわが民イスラエルの上に士師を立てたる時よりの如くふたたび之を惱ますことなかるべし我汝の諸の敵をやぶりて汝を安かならしめたり又エホバ汝に告ぐエホバ汝のために家をたてん二汝の日の満て汝が汝の父祖等と共に寝らん時に我汝の身より出る汝の種子を汝の後たてて其國を堅うせん三彼わが名のために家を建ん我永く其國の位を堅うせん四我はかれの父となり彼はわが子となるべし彼もし迷はば我人の杖と人の子の鞭を以て之を懲さん五されど我の恩恵はわが汝のまへより除きしサウルより離れたることくに彼よりは離ることあらじ六汝の家と汝の國は汝のまへに永く保つべし汝の位は永く堅うせらるべし七ナタン凡て是等の言のごとくまたすべてこの異象のごとくダビデに語りければ八ダビデ王入りてエホバの前に坐していひけるは主エホバよ我は誰わが家は何なればか爾此まで我を導きたまひしや九主エホバよ此はなほ汝の目には小き事なり汝また僕の家の遙か後の事を語りたまへり主エホバよ是は人の法なり一〇ダビデ此上何を汝に言ふを得ん其は主エホバ汝僕を知たまへばなり二 汝の言のためまた汝の心に隨ひて汝此諸の大なることを爲し僕に之をしらしめたまふ三故に神エホバよ爾は大なり其は我らが凡て耳に聞る所に依ば汝の如き者なくまた汝の外に神なければなり三 地の何れの國か汝の民イスラエルの如くなる其は神ゆきてかれらを贖ひ己の民

となして大なる名を得たまひまた彼らの爲に大なる畏るべき事を爲したまへばなり即ち汝がエジプトより贖ひ取たまひし民の前より國々の人と其諸神を逐拂ひたまへり二四 汝は汝の民イスラエルをかぎりなく汝の民として汝に定めたまへりエホバよ汝はかれの神となりたまふ三五 されば神エホバよ汝が僕と其家につきて語りたまひし言を永く堅うして汝のいひしごとく爲たまへ三六 ねがはくは永久に汝の名を崇めて萬軍のエホバはイスラエルの神なりと曰しめたまへねがはくは僕ダビデの家をして汝のまへに堅く立しめたまへ三七 其は萬軍のエホバ、イスラエルの神よ汝の僕に示して我汝に家をたてんと言たまひたればなり是故に僕此祈禱を汝に爲す道を心の中に得たり二八 主エホバよ汝は神なり汝の言は眞なり汝この恵を僕に語りたまへり二九 願くは僕の家を祝福て汝のまへに永く続くことを得さしめたまへ其は主エホバ 汝これを語りたまへばなりねがはくは汝の祝福によりて僕の家に永く祝福を蒙らしめたまへ

第八章 此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服すダビデまたペリシテ人の手よりメテグアンマをとれりニダビデまたモアブを撃ち彼らをして地に伏しめ繩をもてかれらを度れり即ち二條の繩をもて死者を度り一條の繩をもて生しおく者を量度るモアブ人は貢物を納てダビデの臣僕となれり三ダビデまたレホブの子なるゾバの王ハダゼルがユフラテ河の邊にて其勢を新にせんとして往るを撃り四しかしてダビデ彼より騎兵千七百人歩

兵二萬人を取りまたダビデ一百の車の馬を存して其餘の車馬は皆其筋を切斷り五ダマスコのスリア人ゾバの王ハダゼルを援んとて來りければダビデ、スリア人二萬二千を殺せり六しかしてダビデ、ダマスコのスリアに代官を置きぬスリア人は貢物を納てダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往く所に助けたまへり七ダビデ、ハダゼルの臣僕等の持る金の楯を奪ひてこれをエルサレムに携きたるハダビデ王又ハダゼルの邑ベタとペロタより甚だ多くの銅を取り九時にハマテの王トイ、ダビデがハダゼルの總の軍を撃破りしを聞て二〇トイ其子ヨラムをダビデ王につかはし安否を問ひかつ祝を宣しむ其はハダゼル嘗てトイと戰を爲したるにダビデ、ハダゼルとたかひてこれを撃やぶりたればなりヨラム銀の器と金の器と銅の器を携へ來りければ二ダビデ王其攻め伏せたる諸の國民の中より取りて納めたる金銀と共に是等をもエホバに納めたり二三 即ちエドムよりモアブよりアンモンの子孫よりペリシテ人よりアマレクよりえたる物およびゾバの王レホブの子ハダゼルより得たる掠取物とともにこれを納めたり三四ダビデ、エドムにエドム人一萬八千を撃て歸て名譽を得たり二四ダビデ、エドムに代官を置り即ちエドムの全地に徧く代官を置てエドム人は皆ダビデの臣僕となれりエホバ、ダビデを凡て其往くところにて助け給へり二五ダビデ、イスラエルの全地を治め其民に公道と正義を行ふ二六ゼルヤの子ヨアブは軍の長アヒルデの子ヨシヤ

バテは史官一セアヒトブの子ザドクとアピヤタルの子アヒメレクは祭司セラヤは書記官一ハエホヤダの子ベナヤはケレテ人およびペレテ人の長ダビデの子等は大臣なりき

第九章一愛にダビデいひけるはサウルの家の遺存れる者尚あるや我ヨナタンの爲に其人に恩恵をほどこさんとニサウルの家の僕なるチバと名くる者ありければかれをダビデの許に召きたるに王かれにいひけるは汝はチバなるか彼いふ僕是なり三王いけるは尚サウルの家の者あるか我其人に神の恩恵をほどこさんとすチバ王にいひけるはヨナタンの子尚あり跛足なり四王かれにいひけるは其人は何處にをるやチバ王にいひけるはロデバルにてアンミエルの子マキルの家にをる五ダビデ王人を遣はしてロデバルより即ちアンミエルの子マキルの家よりかれを携來らしむ六サウルの子ヨナタンの子なるメピボセテ、ダビデの所に來り伏て拜せりダビデ、メピボセテよといひければ答て僕此にありと曰ふ七ダビデかれにいひけるは恐るるなかれ我必ず汝の父ヨナタンの爲に恩恵を汝にしめさん我汝の父サウルの地を悉く汝に復すべし又汝は恒に我席において食ふべしと八かれ拜して言けるは僕何なればか汝死たる犬のごとき我を眷顧たまふ九王サウルの僕チバを呼てこれにいひけるは凡てサウルとその家の物は我皆汝の主人の子にあたり〇汝と汝の子等と汝の僕かれのために地を耕へして汝の主人の子に食ふべき食物を取りきたるべし但し汝の主人の子メピボセテは恒に我

席において食ふべしとチバは十五人の子と二十人の僕あり一チバ王にいひけるは總て王が主の僕に命じたまひごとく僕なすべしとメピボセテは王の子の一人のごとくダビデの席にて食へり二メピボセテに一人の若き子あり其名をミカといふチバの家に住る者は皆メピボセテの僕なりき三メピボセテはエルサレムに住みたり其はかれ恒に王の席にて食ひたればなりかれは兩の足とも跛たる者なり

第一〇章一此後アンモンの子孫の王死て其子ハヌン之に代りて位に即くニダビデ我ナハシの子ハヌンにその父の我に恩恵を示せしごとく恩恵を示さんといひてダビデかれを其父の故によりて慰めんとて其僕を遣せりダビデの僕アンモンの子孫の地にいたるに三アンモンの子孫の諸伯其主ハヌンにいひけるはダビデ慰者を汝に遣はしたるによりて彼汝の父を崇むと汝の目に見ゆるやダビデ此城邑を窺ひこれを探りて陥れんために其僕を汝に遣はせるにあらずや四是においてハヌン、ダビデの僕を執へ其鬚の半を剃り落し其衣服を中より斷て股までにしてこれを歸せり五人々これをダビデに告たればダビデ人を遣はしてかれらを迎へしむ其人々大に恥たればなり即ち王いふ汝ら鬚の長るまでエリコに止まりて然るのち歸るべしと六アンモンの子孫自己のダビデに惡まるるを見しかばアンモンの子孫人を遣はしてベテレホブのスリア人とゾバのスリア人の歩兵二萬人およびマアカの王より一千人トブの人より一萬二千人を雇入れた

リ七ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣はせりハアンモンの子孫出て門の入口に軍の陣列をなしたりゾバとレホブのスリア人およびトブの人とマアカの人は別に野に居り九ヨアブ戦の前後より己に向ふを見てイスラエルの選抜の兵の中を選みてこれをスリア人に對ひて備へしめ○其餘の民をば其兄弟アシヤイの手に交してアンモンの子孫に向て備へしめて一いひけるは若スリア人我に手強からば汝我を助けよ若アンモンの子孫汝に手剛からば我ゆきて汝をたすけんニ汝勇ましくなれよ我ら民のためとわれらの神の諸邑のために勇しく爲んねがはくはエホバ其目によしと見ゆるところをなしたまへニヨアブ己と共に在る民と共にスリア人にむかひて戦んとて近づきければスリア人彼のまへより逃たり二四アンモンの子孫スリア人の逃たるを見て亦自己等モアビシヤイのまへより逃て城邑にいりぬヨアブすなはちアンモンの子孫の所より還りてエルサレムにいたるニスリア人其イスラエルのまへに敗れたるを見て俱にあつまり六ハダデゼル人をやりて河の彼岸にをるスリア人を將ぬ出して皆ヘラムにきたらしむハダデゼルの軍の長シヨバクかれらを率ぬたりニ七其事ダビデに聞きければ彼イスラエルを悉く集めてヨルダンを涉りてヘラムに來れりスリア人ダビデに向ひて備へ之と戦ふニスリア人イスラエルのまへより逃ければダビデ、スリアの兵車の人七百騎兵四萬を殺し又其軍の長シヨバクを撃てこれを其所に死しめたりニ九ハダデゼ

ルの臣なる王等其イスラエルのまへに壞れたるを見てイスラエルと平和をなして之に事へたり斯スリア人は恐れて再びアンモンの子孫を助くることをせざりき
 第一章一年歸りて王等の戦に出る時におよびてダビデ、ヨアブおよび自己の臣僕並にイスラエルの全軍を遣はせり彼等アンモンの子孫を滅ぼしてラバを圍めりされどダビデはエルサレムに止りぬニ爰に夕暮にダビデ其床より興きいでて王の家の屋蓋のうへに歩みしが屋蓋より一人の婦人の體をあらふを見たり其婦は觀るに甚だ美しニダビデ人を遣して婦人を探らしめしに或人いふ此はエリアムの女ハテシバにてヘテ人ウリヤの妻なるにあらずやと四ダビデ乃ち使者を遣はして其婦を取る婦彼に來りて彼婦と寝たりしかして婦其不潔を清めて家に歸りぬ五かくて婦孕みければ人をつかはしてダビデに告ていひけるは我子を孕めりて六是においてダビデ人をヨアブにつかはしてヘテ人ウリヤを我に遣はせといひければヨアブ、ウリヤをダビデに遣はせり七ウリヤ、ダビデにいたりしかばダビデこれにヨアブの如何なると民の如何なると戰爭の如何なるを問ふハしかしてダビデ、ウリヤにいひけるは汝の家に下りて足を洗へとウリヤ王の家を出るに王の贈物其後に從ひてきたる九然どウリヤは王の家の門に其主の僕等とともに寝ておのれの家にくだりいたらす○人々ダビデに告てウリヤ其家にくだり至らずといひければダビデ、ウリヤにいひけるは汝は旅路をなして來れ

るにあらざるや何故に自己の家にくだらざるやニウリヤ、ダビデにいひけるは糧とイスラエルとユダは小屋の中に住まりわが主ヨアブとわが主の僕は野の表に陣を取るに我いかでわが家にゆきて食ひ飲しまた妻と寝べけんや汝は生また汝の靈魂は活く我此事をなさじニダビデ、ウリヤにいふ今日も此にとどまれ明日我汝を去しめんとウリヤ其日と次の日エルサレムにとどまりしがニダビデかれを召て其まへに食ひ飲せしめダビデかれを酔しめたり晩にいたりて彼出て其床に其主の僕と共に寝たりされどおのれの家にはくだりゆかざりきニ四朝におよびてダビデ、ヨアブへの書を認めて之をウリヤの手によりて遣れりニ五ダビデ其書に書いていはく汝らウリヤを烈しき戦の先鋒にいだしてかれの後より退きて彼をして戦死せしめよニ六是においてヨアブ城邑を窺ひてウリヤをば其勇士の居ると知る所に置りニ七城邑の人出てヨアブと戦ひしかばダビデの僕の中の數人仆れへて人ウリヤも死りニ八ヨアブ人をつかはして軍の事を悉くダビデに告げしむニ九ヨアブ其使者に命じていひけるは汝が軍の事を皆王に語り終しときニ〇王もし怒りを發して汝に汝らなんぞ戦はんとて城邑に近づきしや汝らは彼らが石牆の上より射ることを知らざりしやニエルベセテの子アビメレクを撃し者は誰なるや一人の婦が石垣の上より磨の上石を投て彼をテベツに殺せしにあらざるや何ぞ汝ら城垣に近づきしやと言はば汝言べし汝の僕へて人ウリヤもまた死りとニ使者ゆきてダビデにいた

りヨアブが遣はしたるところの事をことごとく告げたりニ使者ダビデにいひけるは敵我儕に手強かりしが城外にいでて我儕にいたりしかば我儕これに迫りて門の入口にまでいたれりニ四時に射手の者城垣の上より汝の僕を射たりければ王の僕の或者死に亦汝の僕へて人ウリヤも死りとニ五ダビデ使者にいひけるは斯汝ヨアブに言べし此事を憂ふるなかれ刀劍は此をも彼をも同じく殺すなり強く城邑を攻て戦ひ之を陥るべしと汝かくヨアブを勵ますべしニ六ウリヤの妻其夫ウリヤの死たるを聞て夫のために悲哀りニ七其喪の過し時ダビデ人を遣はしてかれをおのれの家に召いる彼すなはちその妻となりて男子を生り但しダビデの爲たる此事はエホバの目に惡かりき

第二章ニエホバ、ナタンをダビデに遣はしたまへば彼ダビデに至りてこれにいひけるは一の邑に二箇の人あり一は富て一は貧しニ其富者は甚だ多くの羊と牛を有りニされど貧者は唯自己の買て育てたる一の小き牝羊の外は何をも有ざりき其牝羊彼およびかれの子女とともに生長ちかれの食物を食ひかれの椀に飲みまた彼の懷に寝て彼には女子のごとくなりき四時に一人の旅人其富る人の許に來りけるが彼おのれの羊と牛の中をとりてそのおのれに來れる旅人のために烹を惜みてかの貧き人の牝羊を取りて之をおのれに來れる人のために烹たり五ダビデ其人の事を大に怒りてナタンにいひけるはエホバは生く誠に此をなしたる人は死べきなり六且彼此事をなしたるに因りまた

憐憫まざりしによりて其牝羔を四倍になして償ふべし。ナタン、ダビデにいひけるは汝は其人なりイスラエルの神エホバ斯いひたまふ我汝に膏を沃いでイスラエルの王となし我汝をサウルの手より救ひだし。汝に汝の主人の家をあたへ汝の主人の諸妻を汝の懐に與へまたイスラエルとユダの家を汝に與へたり。若し少からば我汝に種々の物を増くはへしならん。何ぞ汝エホバの言を藐視じて其目のまへに惡をなせしや。汝刃劍をもてヘテ人ウリヤを殺し其妻をととりて汝の妻となせり。即ちアンモンの子孫の劍をもて彼を斬殺せり。○汝我を軽んじてヘテ人ウリヤの妻をととり汝の妻となしたるに因て劍何時までも汝の家を離ることなかるべし。エホバ斯いひたまふ視よ我汝の家の中より汝の上に禍を起すべし。我汝の諸妻を汝の目のまへに取て汝の隣人に與へん其人此日のまへにて汝の諸妻とともに寢ん。二其は汝は密に事をなしたれど我はイスラエルの衆のまへと日のまへに此事をなすべければなり。と三ダビデ、ナタンにいふ我エホバに罪を犯したり。ナタン、ダビデにいひけるはエホバまた汝の罪を除きたまへり。汝死ざるべし。四されど汝此所行によりてエホバの敵に大なる罵る機会を與へたれば汝に生れし其子必ず死べし。と五かくてナタン其家にかへれり。爰にエホバ、ウリヤの妻がダビデに生る子を撃たまひければ痛く疾めり。一六ダビデ其子のために神に乞求む。即ちダビデ斷食して入り終夜地に臥したり。一七ダビデの家の年寄等彼の傍に立ちてかれを地

より起しめんとせしかども彼肯せず。又かれらとともに食を爲ざりき。一八第七日に其子死り。ダビデの僕其子の死たることをダビデに告ることを恐れたり。かれらにいひけるは子の尚生る間に我儕彼に語たりしに彼我儕の言を聽いれざりき。如何ぞ彼に其子の死たるを告ぐべけんや。彼害を爲んと。九然にダビデ其僕の私語くを見てダビデ其子の死たるを曉れり。ダビデ乃ち其僕に子死たるやといひければかれら死りといふ。○是においてダビデ地よりおきあがり身を洗ひ膏をぬり其衣服を更てエホバの家にいりて拜し自己の家に至り求めておのれのために食を備へしめて食へり。二僕等彼にいひけるは此の汝がなせる所は何事なるや。汝子の生るあひだはこれがために斷食して哭きながら子の死る時に汝は起て食を爲すと。三ダビデいひけるは嬰孩の尚生るあひだにわが斷食して哭きたるは我誰かエホバの我を憐れみて此子を生しめたまふを知らんと思ひたればなり。三されど今死たれば我なんぞ斷食すべけんや。我再びかれをかへらしむるを得んや。我かれの所に往べけれど彼は我の所にかへらざるべし。四ダビデ其妻バテシバを慰めかれの所にいりてかれとともに寢たりければ彼男子を生り。ダビデ其名をソロモンと呼ぶ。エホバこれを愛したまひて。五預言者ナタンを遣はし其名をエホバの故によりてエデデア(エホバの愛する者)と名けしめたまふ。一六爰にヨアブ、アンモンの子孫のラバを攻めて王城を取れり。一七ヨアブ使者をダビデにつかはしていひけるは我ラバを攻て水城

を取れりニハされば汝今餘の民を集め斯城に向て陣どりて之を取れ恐らくは我此城を取て人我名をもて之を呼にいたらんと元是においてダビデ民を悉くあつめてラバにゆき攻て之を取りヨシかしてダビデ、アンモン王の冕を其首より取はなしたり其金の重は一タラントなりまた寶石を嵌たりこれをダビデの首に置ダビデ其邑の掠取物を甚だ多く持出せり三かくてダビデ其中の民を將いだしてこれを鎧と鐵の千齒と鐵の斧にて斬りまた瓦陶の中を通行しめたり彼斯のごとくアンモンの子孫の凡ての城邑になせりしかしてダビデと民は皆エルサレムに還りぬ

第三章 此後ダビデの子アブサロムにタマルと名くる美しき妹ありしがダビデの子アムノンこれを戀ひたりニアムノン心を苦しめて遂に其姉妹タマルのためにわづらへり其はタマルは處女なりければアムノンかれに何事をも爲しがたしと思ひたればなり三然るにアムノンに一人の朋友ありダビデの兄弟シメアの子にして其名をヨナダブといふヨナダブに甚だ有智き人なり四彼アムノンにいひけるは汝王の子なんぞ日に日に斯く瘦ゆくや汝我に告ざるやアムノン彼にいひけるは我わが兄弟アブサロムの妹タマルを戀ふヨナダブかれにいひけるは床に臥て病と伴り汝の父の來りて汝を見る時これにいへ請ふわが妹タマルをして來りて我に食を予へしめわが見て彼の手より食ふことをうる様にわが目のまへにて食物を調理しめよと六アムノンすなはち臥して病と伴りしが王の來りておのれを見る時アム

ノン王にいひけるは請ふ吾妹タマルをして來りてわが目のまへにて二の菓子を作へしめて我にかれの手より食ふことを得さしめよと七是においてダビデ、タマルの家にいひつかはしけるは汝の兄アムノンの家にゆきてかれのために食物を調理よと八タマル其兄アムノンの家にいたるにアムノンは臥し居たりタマル乃ち粉をとりて之を搏てかれの目のまへにて菓子を作へ其菓子を焼き九鍋を取て彼のままに傾けたりしかれども彼食ふことを否めりしかしてアムノンいひけるは汝ら皆我を離れていでよと皆かれをはなれていでたり一〇アムノン、タマルにいひけるは食物を寢室に持きたれ我汝の手より食はんとタマル乃ち己の作りたる菓子を取て寢室に持ちきて其兄アムノンにいたるニタマル彼に食しめんとて近く持いたる時彼タマルを執へて之にいひけるは妹よ來りて我と寢よニタマルかれにいひける否兄上よ我を辱しむるなかれ是のごとき事はイスラエルに行はず汝此愚なる事をなすべからず三我は何處にわが恥辱を棄んか汝はイスラエルの愚人の一人となるべしされば請ふ王に語れ彼我を汝に予ざることなかるべしと四然どもアムノン其言を聽ずしてタマルより力ありければタマルを辱しめてこれと偕に寢たりしが五遂にアムノン甚だ深くタマルを惡むにいたる其かれを惡む所の惡みはかれを戀ひたるころの戀よりも大なり即ちアムノンかれにいひけるは起て往けよ六かれアムノンにいひけるは我を返して此惡を作るなかれ是は汝がさき

に我になしたる所の惡よりも大なりとしかれども聽いれず一七
 其側に仕ふる少者を呼ひいひけるは汝此女をわが許より遣り
 いだして其後に戸を鍵せとハタマル振袖を着めたり王の女等
 の處女なるものは斯のごとき衣服をもて粧ひたりアムノンの
 侍者かれを外にいだして其後に戸を鍵せりニ九タマル灰を其首
 に蒙り着たる振袖を裂き手を首にのせて呼はりつつ去ゆけり二〇
 其兄アブサロムかれにいひけるは汝の兄アムノン 汝と偕に在
 しや然ど妹よ黙せよ彼は汝の兄なり此事を心に留るなかれとか
 くてタマルは其兄アブサロムの家に凄しく住み居れりニダビ
 デ王是等の事を悉く聞て甚だ怒れりニ三アブサロムはアムノン
 にむかひて善も惡きも語ざりき其はアブサロム、アムノンを惡
 みたればたり是はかれがおのれの妹、タマルを辱しめたるに由
 りニ三全二年の後アブサロム、エフライムの邊なるバルハゾル
 にて羊の毛を剪しめ居て王の諸子を悉く招けりニ四アブサロム
 王の所にいりていひけるは視よ僕羊の毛を剪しめをるねがは
 くは王と王の僕等僕とともに來りたまへニ五王アブサロムに云
 けるは否わが子よ我儕を皆いたらしむるなかれおそらくは汝の
 費を多くせんアブサロム、ダビデを強ふしかれどもダビデ往こ
 とを肯せずして彼を祝せりニ六アブサロムいひけるは若しから
 ずば請ふわが兄アムノンをして我らとともに來らしめよ王かれ
 にいひけるは彼なんぞ汝とともにゆくべけんやとモされどア
 ブサロムかれを強ければアムノンと王の諸子を皆アブサロムと

ともにゆかしめたりニ八愛にアブサロム其少者等に命じていひ
 けるは請ふ汝らアムノンの心の酒によりて樂む時を視すまして
 わが汝等にアムノンを撃つと言ふ時に彼を殺せ懼るるなかれ
 汝等に之を命じたるは我にあらすや汝ら勇しく武くなれとニ九
 アブサロムの少者等アブサロムの命ぜしごとくアムノンになし
 ければ王の諸子皆起て各其驪馬に乗て逃たりニ〇彼等が路にあ
 る時風聞ダビデにいたりていはくアブサロム王の諸子を悉く殺
 して一人も遺るものなしとニ一王乃ち起ち其衣を裂きて地に臥
 す其臣僕皆衣を裂て其傍にたてりニ二ダビデの兄弟シメアの子
 ヨナダブ答へていひけるは吾主よ王の御子等なる少年を皆殺し
 たりと思たまふなかれアムノン獨り死るのみ彼がアブサロムの
 妹、タマルを辱かしめたる日よりアブサロム此事をさだめおき
 たるなりニ三されば吾主王よ王の御子等皆死りといひて此事を
 おもひ煩ひたまふなかれアムノン獨死たるなればなりとニ四斯
 てアブサロムは逃れたり爰に守望あたる少者目をあげて視たる
 に視よ山の傍よりして己の後の道より多くの人來れりニ五ヨナ
 ダブ王にいひけるは視よ王の御子等來る僕のいへるがごとくし
 かりとニ六彼語ることを終し時視よ王の子等來り聲をあげて哭
 り王と其僕等も皆大に甚く哭りニ七僭アブサロムは逃てゲシ
 ユルの王アミホデの子タルマイにいたるダビデは日々其子のた
 めに悲めりニ八アブサロム逃てゲシユルにゆき三年彼處に居た
 りニ九ダビデ王アブサロムに逢んと思ひ煩らふ其はアムノンは

死たるによりてダビデかれの事はあきらめられたればなり

第一章一ゼルヤの子ヨアブ王の心のアブサロムに趣くをしれりニヨアブ乃ちテコアに人を遣りて彼處より一人の哲婦を呼きたらしめて其婦にいひけるは請ふ汝喪にある眞似して喪の服を着油む身にぬらず死者のために久しく哀しめる婦のごとく爲りて三王の所にいたり是のごとくかれに語るべしとヨアブ其語言をかれの口に授けたり四テコアの婦王にいたり地に伏て拜し王にいひけるは王よ助けたまへ五王婦にひけるは何事なるや婦いひけるは我は實に嫠婦にしてわが夫は死り六仕女に二人の子あり俱に野に争ひしが誰もかれらを排解ものなきにより此遂に彼を撃て殺せり七是において視よ全家仕女に逼りていふ其兄弟を撃殺したる者を付せ我らかれをその殺したる兄弟の生命のために殺さんと斯く嗣子をも滅ぼし存れるわが炭火を熄てわが夫の名をも遺存をも地の面に無らしめんとす八王婦にいひけるは汝の家に往け我汝の事につきて命令を下さん九テコアの婦王にいひけるは王わが主よねがはくは其罪は我とわが父の家に歸して王と王の位には罪あらざれ一〇王いひけるは誰にても爾に語る者をば我に將來れしかせば彼かさねて爾に觸ること无るべし二婦いひけるは願くは王爾の神アホバを憶えてかの仇を報ゆる者をして重て滅すことを爲しめず我子を斷ことなからしめたまへと王いひけるはエホバは生く爾の子の髮毛一すぢも地に墮ることなかるべし三婦いひけるは請ふ

仕女をして一言わが主王に言しめたまへダビデいひけるは言ふべし三婦いひけるは爾なんぞ斯る事を神の民にむかひて思ひたるや王此言を言ふにより王は罪ある者のごとし其は王その放れたる者を歸らしめざればなり四抑我儕は死ざるべからず我儕は地に瀉れたる水の再び聚る能はざるがごとし神は生命を取りたまはず方法を設けて其放れたる者をして己の所より放たれをることなからしむ五我此事を王我主に言んとて來れるは民我を恐れしめたればなり故に仕女謂らく王に言ん王婢の言を行ひたまふならんと六其は王聞て我とわが子を共に滅して神の産業に離れしめんとする人の手より婢を救ひいだしたまふべければなり七仕女また思り王わが主の言は慰となるべしと其は神の使のごとく王わが主は善も惡も聽たまへばなりねがはくは爾の神エホバ爾と共に在せと八王こたへて婦にいひけるは請ふわが爾に問んところの事を我に隠すなれ婦いふ請ふ王わが主言たまへ九王いひけるは比すべての事においてはヨアブの手爾とともにあるや婦答へていひけるは爾の靈魂は活く王わが主よ凡て王わが主の言たまひしところは右にも左にもまがらず皆に爾の僕ヨアブ我に命じ是等の言を悉く仕女の口に授けたり一〇其事の見ゆるところを變かんとて爾の僕ヨアブ此事をなしたるなり然どわが主は神の智慧のごとく智慧ありて地にある事を悉く知たまふと一是において王ヨアブにいひけるは視よ我此事を爲すされば往て少年アブサロムを携歸る

べし三ヨアブ地に伏し拜し王を祝せりしかしてヨアブいひけるは王わが主よ王僕の言を行ひたまへば今日僕わが爾に恵るを知る三ヨアブ乃ち起てゲシユルに往きヨアブをエールサレムに携きたれり四王いひけるは彼は其家に退くべしわが面を見るべからずと故にヨアブ己の家に退きて王の面を觀ざりき五倍イスラエルの中にヨアブのごとく其美貌のために讚られたる人はなかりき其足の跡より頭の頂にいたるまで彼には瑕疵あることなし六ヨアブ其頭を剪る時其頭の髪を衡るに王の權衡の二百シケルあり毎年の終にヨアブ其頭を剪り是は己の重によりて剪たるなり七ヨアブ三人の男子と一人のタマルといふ女子生れたりタマルは美なり八ヨアブ二年のあひだエルサレムにをりたれども王の顔を見ざりき九是によりてヨアブ王に遣さんとてヨアブを呼に遣はしけるが彼來ることを肯せず再ひ遣せしかども來ることを肯せざりき十ヨアブ其僕にいひけるは視よヨアブの田地は私の近くありて其處に大麥あり往て其に火を放てとヨアブの僕等田地に火を放てり三ヨアブ起てヨアブの家に來りてこれにいひけるは何故に爾の僕等田地に火を放たるや三ヨアブヨアブに我人を爾に遣はして此に來れ我爾を王につかはさんと語り即ち爾をして王に我何のためにゲシユルよりきたりしや彼處に尚あらば我のために反て善しと言しめんとせり然ば我今王の面を見ん若し我に罪あ

らば王我を殺すべし三ヨアブ王にいたりてこれに告たれば王ヨアブを召す彼王にいたりて王のまへに地に伏て拜せり王ヨアブに接吻す

第一章 此後ヨアブ己のために戰車と馬ならびに己のまへに驅る者五十人を備たりヨアブ夙興きて門の途の傍にたち人の訴訟ありて王に裁判を求めんとて來る時はヨアブ其人を呼ていふ爾は何の邑の者なるや其人僕はイスラエルの某の支派の者なりといへばヨアブ其人にいふ見よ爾の事は善くまた正し然ど爾に聽くべき人は王いまだ立すと四ヨアブ又嗚呼我を此地の土師となす者もがな然れば凡て訴訟と公事ある者は我に來りて我之に公義を爲しあたへんといふまた人彼を拜せんとて近づく時は彼手をのばして其人を扶け之に接吻す六ヨアブ凡て王に裁判を求めんとて來るイスラエル人は是のごとくなせり斯アヨアブはイスラエルの人々の心を取り七斯て四年の後ヨアブ王にいひけるは請ふ我をして往てヘブロンにてエホバに我嘗て立し願を果さしめよ八其は僕スリアのゲシユルに居し時願を立て若しエホバ誠に我をエールサレムに携歸りたまはば我エホバに事へんと言たればなりと九王かれにいひけるは安然に往けと彼すなはち起てヘブロンに往り○しかしてヨアブ窺ふ者をイスラエルの支派の中に徧く遣はして言せけるは爾等喇叭の音を聞ばヨアブヘブロンにて王となれりと思ふべしと二二百人の招かれたる者

エルサレムよりアブサロムとともにゆけり彼らは何心なくゆきて何事をもしらざりきニアブサロム犠牲をささぐる時にダビデの議官ギロ人アヒトベルを其邑ギロより呼よせたり徒黨強くして民次第にアブサロムに加はりぬニ爰に使者ダビデに來りてイスラエルの人の心アブサロムにしたがふといふニ四ダビデおのれと共にエルサレムに居る凡ての僕にいひけるは起てよ我ら逃ん然らずば我らアブサロムより遁るあたはざるべし急ぎ往け恐らくは彼急ぎて我らに追ひつき我儕に害を蒙らせ刃をもて邑を撃んニ五王の僕等王にいひけるは視よ僕等王が主の選むところを凡て爲んニ六王いでゆき其全家これにしたがふ王十人の妾なる婦を遣して家をまもらしむニ七王いでゆき民みな之にしたがふ彼等遠の家に息めりニ八かれの僕等みな其傍に進みケレテ人とペレテ人および彼にしたがひてガテよりきたれる六百人のガテ人みな王のまへに進めりニ九時に王がガテ人イツタイにいひけるは何ゆゑに爾もまた我らとともにゆくや爾かへりて王とともにをれ爾は外國人にして移住て處をもとむる者なりニ〇爾は昨日來れり我は今日わが得るところに往くなれば豈爾をして我らとともにさまよはしむべけんや爾歸り爾の兄弟をも携歸るべしねがはくは恩と眞實爾とともにあれニイツタイ王に答へていひけるはエホバは活く王が主は活く誠に王が主いかなる處に坐すとも生死ともに僕もまた其處に居るべしニ三ダビデ、イツタイにいひけるは進みゆけガテ人イツタイ

乃ち進みかれのすべての從者およびかれとともにある妻子皆進めりニ國中皆大聲をあげて哭き民皆進む王もまたキデロン川を渡りて進み民皆進みて野の道におもむけりニ四視よザドクおよび俱にあるレビ人もまた皆神の契約の櫃を昇ていたり神の櫃をおろして民の悉く邑よりいづるをまてりアビヤタルもまたのぼれりニ五ここに王ザドクにいひけるは神の櫃を邑に昇もどせ若し我エホバのまへに恩をうるならばエホバ我を携かへりて我にこれを見し其往處を見したまはんニ六されどエホバもし汝を悦ばずと斯いひたまはば視よ我は此にあり其目に善と見ゆるところを我になしたまへニ七王また祭司ザドクにいひけるは汝先見者汝らの二人の子即ち汝の子アヒマズとアビヤタルの子ヨナタンを伴ひて安然に城邑に歸れニ八見よ我は汝より言のきたりて我に告るまで野の渡場に留まらんとニ九ザドクとアビヤタルすなはち神の櫃をエルサレムに昇もどりて彼處に止まれりニ〇ここにダビデ橄欖山の路を陟りしが陟るときに哭き其首を蒙みて跣足にて行りかれと俱にある民皆各其首を蒙みてのぼり哭つつのぼれりニ一時にアヒトベルがアブサロムに與せる者の中にあることダビデに聞えければダビデいふエホバねがはくはアヒトベルの計策を愚ならしめたまへとニ三ダビデ嶺にある神を拝する處に至れる時視よアルキ人ホシヤイ衣を裂き土を頭にかむりてきたりてダビデを迎ふニ四ダビデかれにいひけるは爾若し我とともに進まば我の負となるべしニ四されど

汝もし城邑にかへりてアブサロムにむかひ王よ我爾の僕となるべし此まで爾の父の僕たりしごとく今また汝の僕となるべしといはば爾はわがためにアヒトペルの計策を敗るにいたらん
 五祭司ザドクとアビヤタル爾とともに彼處にあるにあらずや是故に爾が王の家より聞たる事はごとく祭司ザドクとアビヤタルに告げし三六視よかれらとともに彼處にはその二人の子即ちザドクの子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンをなり爾ら其聞たる事をことごとく彼等の手によりて我に通ずべし
 三七ダビデの友ホシヤイすなはち城邑にいたりぬ時にアブサロムはエルサレムに入居たり

第一六章一ダビデ少しく嶺を過ゆける時視よメヒボセテの僕チバ鞍おける二頭の驢馬を引き其上にパン二百乾葡萄一百球乾棗の團塊一百酒一囊を載きたりてダビデを迎ふニ王チバにいひけるは此等は何なるかチバいひけるは驢馬は王の家族の乗るためパンと乾棗は少者の食ふため酒は野に困憊たる者の飲むためなりニ王いひけるは爾の主人の子は何處にあるやチバ王にいひけるはかれはエルサレムに止まる其は彼イスラエルの家今日我父の國を我にかへさんとををばなり四王チバにいひけるは我拜す王わが主よ我をして爾のまへに恩を蒙むらしめたまへ五斯てダビデ王バホルムにいたるに視よ彼處よりサウルの家の族の者一人出きたる其名をシメイといふゲラの子なり彼出

きたりて來りつつ詔へり六又彼ダビデとダビデ王の諸の臣僕にむかひて石を投たり時に民と勇士皆王の左右にあり七シメイ詔の中に斯いへり汝血を流す人よ爾邪なる人よ出され出されハ爾が代りて位に登りしサウルの家の血を凡てアホバ爾に歸したまへりアホバ國を爾の子アブサロムの手に付したまへり視よ爾は血を流す人なるによりて禍患の中にあるなり九ゼルヤの子アビシヤイ王にいひけるは此死たる犬なんぞ王わが主を詔ふべけんや請ふ我をして洗りゆきてかれの首を取しめよ一〇王いひけるはゼルヤの子等よ爾らの與るところにあらず彼の詔ふはアホバ彼にダビデを詔へと言たまひたるによるなれば誰か爾なんぞ然するやと言べけんやニダビデ又アビシヤイおよび己の諸の臣僕にいひけるは視よわが身より出たるわが子わが生命を求め況や此ベニヤミン人をや彼を聽して詔はしめよアホバ彼に命じたまへるなりニアホバわが艱難を俯視みたまふことあらん又アホバ今日彼の詔のために我に善を報いたまふことあらん
 二三斯てダビデと其從者途を行けるにシメイはダビデに對へる山の傍に行つて行つて詔ひまた彼にむかひて石を投げ塵を揚たり
 二四王および俱にある民皆アエビムに來りて彼處に息をつげり
 五楮アブサロムと總ての民イスラエルの人々エルサレムに至れりアヒトペルもアブサロムとともにいたるニ六ダビデの友なるアルキ人ホシヤイ、アブサロムの許に來りし時アブサロムにいふ願くは王壽かれ願くは王壽かれ七アブサロム、ホシヤイ

にいひけるは此は爾が其友に示す厚意なるや爾なんぞ爾の友と往ざるやと一八ホシヤイ、アブサロムにいひけるは然らずエホバと此民とイスラエルの總の人々の選む者に我は屬し且其人とともに居るべし一九且又我誰に事ふべきか其子の前に事べきにあらずや我は爾の父のまへに事しごとく爾のまへに事べし二〇爰にアブサロム、アヒトベルにいひけるは我儕如何に爲べきか爾等計を爲すべしとニアヒトベル、アブサロムにいひけるは爾の父が遣して家を守らしむる妾等の處に入れ然ばイスラエル皆爾が其父に惡まるるを聞ん而して爾とともにをる總の者の手強くなるべしと三是において屋脊にアブサロムのために天幕を張ければアブサロム、イスラエルの目のまへにて其父の妾等の處に入りぬ三當時アヒトベルが謀れる謀計は神の言に問たることくなりきアヒトベルの謀計は皆ダビデとアブサロムとに俱に是のごとく見えたりき

第十七章 一時にアヒトベル、アブサロムにいひけるは請ふ我に一萬二千の人を擇み出さしめよ我起て今夜ダビデの後を追ひ二彼が憊れて手弱なりし所を襲ふて彼をおびえしめん而して彼とともにをる民の逃ん時に我王一人を撃とり三總の民を爾に歸せしむべし夫衆の歸するは爾が求むる此人に依なれば民みな平穩になるべし四此言アブサロムの目とイスラエルの總の長老の目的當と見えたり五アブサロムにいひけるはアルキ人ホシヤイをも召きたれ我等彼が言ふ所をも聞んと六ホシヤイ乃ちアブサ

ロムに至るにアブサロムかれにかりたりていひけるはアヒトベル是のごとく言へ我等其言を爲すべきか若し可らずば爾言ふべし七ホシヤイ、アブサロムにいひけるは此時にあたりてアヒトベルが授けし計略は善らず八ホシヤイまたいひけるは爾の知ること爾の父と其從者は勇士なり且彼等は野にて其子を奪れたる熊の如く其氣激怒をれり又爾の父は戰士なれば民と共に宿らざるべし九彼は今何の穴にか何の處にか匿れるを若し數人の者手始めに休なば其を聞く者は皆アブサロムに従ふ者の中に敗ありと言はん一〇しからば獅子の心のごとき心ある勇猛き夫といふとも全く挫碎ん其はイスラエル皆爾の父の勇士にして彼ともにある者の勇猛き人なるをしればなり二我は計議するイスラエルをダンよりベエルシバにいたるまで海濱の沙の多きが如くに悉く爾の處につどへ集めて爾親ら戰陣に臨むべし三我等彼の見出さるる處にて彼を襲ひ露の地に下るがごとく彼のうへに降らんしかして彼および彼とともにあるすべての人々を一人も遣さざるべし四若し彼何かの城邑に集らばイスラエル皆繩を其城邑にかけ我等これを河に曳きたふして其處に一の小石も見えざらしむべしと四アブサロムとイスラエルの人々皆アルキ人ホシヤイの謀計はアヒトベルの謀計よりも善しといふ其はエホバ、アブサロムに禍を降さんとてエホバ、アヒトベルの善き謀計を破ることを定めたまひたればなり五爰にホシヤイ祭司ザドクとアビヤタルにいひけるはアヒトベル、アブサロムとイ

スラエルの長老等のために斯々に謀れりきた我は斯々に謀れり
 一六 されば爾ら速に人を遣してダビデに告て今夜野の渡場に宿
 ることなく速に渡りゆけといへおそらくは王および俱にある民
 皆呑つくされん一七時にヨナタンとアヒマアズはエンロゲルに
 俟居たり是は城邑にいるを見られざらんとてなり爰に一人の
 仕女ゆきて彼等に告げければ彼らダビデ王に告んとて往く一八
 しかるに一人の少者かれらを見てアブザロムにつげたりされど
 彼等二人は急ぎさりてバホリムの或人の家にいたる其人の庭に
 井ありてかれら其處にくだりければ九 婦蓋をとりて井の口の
 上へに掩け其上に擣たる麥をひるげたり故に事知れざりき一〇
 時にアブザロムの僕等其婦の家に来りていひけるはアヒマア
 ズとヨナタンは何處にをるや婦かれらに彼人々は小川を濟れり
 といふかれら尋ねたれども見當ざればエルサレムに歸れり二
 彼等が去し時かの二人は井よりのぼりて往てダビデ王に告げた
 り即ちダビデに言けるは起て速かに水を濟れ其はアヒトベルス
 爾等について謀計を爲したればなりと三ダビデ起て己ととも
 にある凡ての民とともにヨルダンを濟れり曙には一人もヨルダ
 ンを濟らざる者はなかりき三三アヒトベルは其謀計の行れざる
 を見て其驢馬に鞍おき起て其邑に往て其家にいたり家の人に遣
 言して自ら縊れ死て其父の墓に葬らる四爰にダビデ、マナハイ
 ムに至る又アブザロムは己とともにあるイスラエルの凡の人々
 とともにヨルダンを濟れり三五アブザロム、アマサをヨアブの代

りに軍の長と爲りアマサは夫のナハシの女にてヨアブの母ゼル
 ヤの妹なるアビガルに通じたるイシマエル人名はエテルといふ
 人の子なり二六 かくてイスラエルとアブザロムはギレアデの地
 に陣どりモダビデ、マハナイムにいたれる時アンモンの子孫
 の中なるラバのナハシの子シヨビとロデバルのアンミエルの子
 マキルおよびロゲリムのギレアデ人バルジライ二八 臥床と鍋釜
 と陶器と小麦と大麦と粉と烘麥と豆と小豆の烘たる者と二九
 蜜と牛酪と羊と犢をダビデおよび俱にある民の食ふために持來
 れり其は彼等民は野にて饑餓れ渴くならんと謂たればなり
 第一八章 一爰にダビデ己とともにある民を核べて其上に千夫の
 長百夫の長を立たりニしかしてダビデ民を三に分ちて其一を
 ヨアブの手に託け一をゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイの
 手に託け一をガテ人イツタイの手に託けたりかくして王民にい
 ひけるは我もまた必ず汝らとともに出んと三されど民いふ汝は
 出べからず我儕如何に逃るとも彼等は我儕に心をとめじ又我儕
 半死とも我儕に心をとめざるべしされど汝は我儕の一萬に等
 し故に汝は城邑の中より我儕を助けなば善し四王かれらにいひ
 けるは汝等の目に善と見ゆるところを爲すべしとかくて王門の
 傍に立ち民皆或は百人或は千人となりて出づ五ヨアブ、アビ
 シヤイおよびイツタイに命じてわがために少年アブザロムを寛
 に待へよといふ王のアブザロムの事について諸の將官に命を下
 せる時民皆聞り六爰に民イスラエルにむかひて野に出でエフラ

イムの叢林に戦ひしがイスラエルの民其處にてダビデの臣僕
 のまへに敗る其日彼處の戦死大にして二萬にいたれりハしかし
 て戦 徧く其地の表に廣がりぬ是日叢林の滅ぼせる者は刀劍の
 滅ぼせる者よりも多かりき九 爰にアブサロム、ダビデの臣僕に
 行き遭り時にアブサロム驃馬に乗居たりしが驃馬大なる橡樹
 の繁き枝の下を過ればアブサロムの頭其椽に繋りて彼天地
 のあひだにあがり驃馬はかれの下より行過たり一〇 一箇の人
 見てヨアブに告ていひけるは我アブサロムが橡樹に懸りをるを
 見たりとニ ヨアブ其告たる人にいひけるはさらば爾見て何故
 に彼を其處にて地に撃落さざりしや我爾に銀十枚と一本の帶
 を與へんものをニ 其人ヨアブにいひけるは假令わが手に銀千
 枚を受べきも我は手をいだして王の子に敵せじ其は王我儕の聞
 るまへにて爾とアビシヤイとイツタイに命じて爾ら各少年ア
 ブサロムを害するなかれといひたまひたればなりニ 我若し反
 いてかれの生命を戕賊はば何事も王に隠るる所なければ爾自
 ら立て我を賣んと一四 時にヨアブ我かく爾とともに滞るべから
 ずといひて手に三本の槍を携へゆきて彼の橡樹の中に尚生をる
 アブサロムの胸に之を衝通せり一五 ヨアブの武器を執る十人の
 少者續きてアブサロムを撃ち之を死しめたり一六 かくてヨアブ
 喇叭を吹ければ民イスラエルの後を追ふことを息てかへれりヨ
 アブ民を止めたればなり一七 衆アブサロムを將て叢林の中な
 る大なる穴に投げいれ其上に甚だ大きく石を疊あげたり是にお

いてイスラエル皆おのおの其天幕に逃かへれり一八 アブサロム
 我はわが名を傳ふべき子なしと云て其生る間に己のために一の
 表柱を建たり王の谷にあり彼おのれの名を其表柱に與たり其
 表柱今日にいたるまでアブサロムの碑と稱らる一九 爰にザドク
 の子アヒマアズいひけるは請ふ我をして趨りて王にエホバの王
 をまもりて其敵の手を免かれしめたまひし音信を傳へしめよと
 ニヨアブかれにいひけるは汝は今日音信を傳ふるものとなる
 べからず他日に音信を傳ふべし今日は王の子死たれば汝音信
 を傳ふべからずニ ヨアブ、クシ人にいひけるは往て爾が見たる
 所を王に告よクシ人ヨアブに禮をなして走れりニザドクの子
 アヒマアズ再びヨアブにいひけるは請ふ何にもあれ我をも亦
 クシ人の後より走ゆかしめよヨアブいひけるは我子よ爾は充分
 の音信を持ざるに何故に走りゆかんとするやニ 三 かれいふ何れ
 にもあれ我をして走りゆかしめよとヨアブかれにいふ走るべし
 是においてアヒマアズ低地の路をはしりてクシ人を走越たり二四
 時にダビデは二の門の間に坐しめたり爰に守望者門の蓋上にあ
 ぼり石牆にのぼりて其目を擧て見るに視よ獨一人にて走きたる
 者ありニ五 守望者呼はりて王に告ければ王いふ若し獨ならば口
 に音信を持つたらんと其人進み來りて近づけりニ六 守望者復
 一人の走りきたるを見しかば守望者守門者に呼はりて言ふ獨
 一人にて走きたる者あり王いふ其人もまた音信を持ものなりニ七
 守望者言ふ我 先者の走を見るにザドクの子アヒマアズの走る

が如しと王いひけるは彼は善人なり善き音信を持来るならん二八
 アヒマアズ呼はりて王にいひけるはねがはくは平安なれとかく
 て王のまへに地に伏していふ爾の神エホバは讃べきかなエホバ
 かの手をあげて王が主に敵したる人々を付したまへり二九王
 いひけるは少年アブサロムは平安なるやアヒマアズこたへける
 は王の僕ヨアブ 僕を遣はせし時我大なる噪を見たれども何を
 も知らざるなり三〇 王いひけるは側にいたりて其處に立よと乃
 ち側にいたりて立つ三 時に視よクシ人來れりクシ人いひける
 はねがはくは王音信を受たまへエホバ今日爾をまもりて凡て
 爾にたち逆ふ者の手を免かれしめたまへり三三 王クシ人にいひ
 けるは少年アブサロムは平安なるやクシ人いひけるはねがはく
 は王が主の敵および凡て汝に起ち逆ひて害をなさんとする者
 は彼少年のごとくなれと三三 王大に感み門の樓にのぼりて哭り
 彼行ながらかくいへりわが子アブサロムよわが子わが子アブサ
 ロムよ嗚呼われ汝に代りて死たらん者をアブサロムわが子よわ
 が子よ

第一章 一時にヨアブに告る者ありていふ視よ王はアブサロム
 の爲に哭き悲しむと三 其日の勝利は凡の民の悲哀となれり其は
 民其日王は其子のために憂ふと言ふを聞たればなり三 其日民は
 戰爭に逃て着たる民の竊て去がごとく竊て城邑にいりぬ四 王は
 其面を掩へり王大聲に叫てわが子アブサロムよアブサロムわが
 子よわが子よといふ五 ここにヨアブ家にいり王の許にいたりて

いひけるは汝今日汝の生命と汝の男子汝の女子の生命および
 汝の妻等の生命と汝の妾等の生命を救ひたる汝の凡の臣僕の
 顔を羞させたり六 是は汝おのれを惡む者を愛しおのれを愛する
 者を惡むなり汝今日汝が諸侯伯をも諸僕をも顧みざるを示せ
 り今日我さとする若しアブサロム生をりて我儕皆死たらば汝の目
 に適ひしならん七 されど今立て出で汝の諸僕を慰めてかたるべ
 し我エホバを指て誓ふ汝若し出ずば今夜ひとりも汝とともにと
 止るものなかるべし是は汝が若き時より今にいたるまでに蒙りた
 る諸の災禍よりも汝に惡かるべし八 是に於て王たちて門に坐す
 人々凡の民に告て視よ王は門に坐し居るといひければ民皆王
 のまへにいたる然どイスラエルはおのむの其天幕に逃かへれり
 九 イスラエルの諸の支派の中に民皆争ひていひけるは王は我儕
 を敵の手より救ひいだしまた我儕をペリシテ人の手より助け
 だせりされど今はアブサロムのために國を逃いでたり一〇 また
 我儕が膏そそぎて我儕の上にかきしアブサロムは戰爭に死ねり
 されば爾ら何ぞ王を導きかへらんことと言ざるや一 だビデ王
 祭司ザドクとアビヤタルに言つかはしけるはユダの長老等に告
 て言へイスラエルの全家の言語王の家に達せしに爾ら何ぞ王を
 其家に導きかへる最後となるや二 爾等はわが兄弟爾らはわが
 骨肉なりしかるになんぞ爾等王を導き歸る最後となるやと三
 又アマサに言べし爾はわが骨肉にあらざるや爾ヨアブにかはり
 て常にわがまへにて軍長たるべし若しからずば神我に斯なし

又重ねてかくなしたまへと二四かくダビデ、ユダの凡の人をして其心を傾けて一人のごとくにならしめければかれら王にねがはくは爾および爾の諸の臣僕歸りたまへといひおくれり二五是において王歸りてヨルダンにいたるにユダの人々王を迎へんとて來りてギルガルにいたり王を送りてヨルダンを濟らんとす二六時にバホルムのベニヤミン人ゲラの子シメイ急ぎてユダの人々とともに下りダビデ王を逐ふ二七一千のベニヤミン人彼ともとにあり亦サウルの家の僕チバも其十五人の男子と二十人の僕をしたがへて偕に居たりしが皆王のまへにむかひてヨルダンをこぎ渡れり二八時に王の家族を濟しまた王の目に善と見ゆるところを罵んとて濟舟を濟せり爰にゲラの子シメイ、ヨルダンを濟れる時王のまへに伏して二九王にいひけるはわが主よねがはくは罪を我に歸するなかれまた王わが主のエルサレムより出たまへる日に僕が爲たる惡き事を記憶したまふなかれねがはくは王これを心に置たまふなかれ三〇其は僕我罪を犯したるを知ればなり故に視よ我今日ヨセフの全家の最初に下り來りて王わが主を逐ふと三 然にゼルヤの子アビシヤイ答へていひけるはシメイはエホバの膏そそぎし者を詛たるに因て其がために誅さるべきにあらずやと三二ダビデいひけるは爾らゼルヤの子よ爾らのあづかるところにあらず爾等今日我に敵となる今日豈イスラエルの中にて人を誅すべけんや我豈わが今日イスラエルの王となりたるをしらざらんやと三三是をもて王はシメイに爾は誅さ

れじといひて王かれに誓へり二四爰にサウルの子メビボセテ下りて王をむかふ彼は王の去し日より安かに歸れる日まで其足を飾らず其鬚を飾らず又其衣を濯ざりき二六彼エルサレムよりきたりて王を逐ふる時王かれにいひけるはメビボセテ爾なんぞ我とともに往ざりしや二六彼こたへけるはわが主王よわが僕我を欺けり僕はわれ驢馬に鞍おきて其に乗て王の處にゆかんといへり僕跛者なればなり二七しかるに彼僕を王わが主に讒言せり然ども王わが主は神の使のごとし故に爾の目に善と見るところを爲たまへ二八わが父の全家は王わが主のまへには死人なるのみなるに爾僕を爾の席にて食ふ者の中に置たまへりされば我何の理ありてか重ねて王に哀訴することをえん二九王かれにいひけるは爾なんぞ重ねて爾の事を言や我いふ爾とチバ其地を分つべし三〇メビボセテ王にいひけるは王わが主安然に其家に歸りたまひたればかれに之を悉くとらしめたまへと三 爰にギレアデ人バルジライ、ロゲリムより下り王を送りてヨルダンを渡らんとて王とともにヨルダンを濟れり三二バルジライは甚だ老たる人にて八十歳なりきかれは甚だ大なる人なれば王のマハナイムに留れる間王を養へり三三王バルジライにいひけるは爾我とともに濟り來れ我エルサレムにて爾を我とともに養はん三四バルジライ王にいひけるはわが生命の年の日尚幾何ありてか我王とともにエルサレムに上らんや三五 我は今日八十歳なり善きと惡きとを辨へるをえんや僕其食ふところと飲ところを味ふを

えんや我再び謳歌之男と謳歌之女の聲を聴えんや僕なんぞ尚
 王が主の累となるべけんや三六 僕は王とともにヨルダンを濟
 りて只少しくゆかん王なんぞこの報賞を我に報ゆるに及ばんや
 三七 請ふ僕を歸らしめよ我自己の邑にてわが父母の墓の側に死
 ん但し僕キムハムを視たまへかれを王わが主とともに濟り往
 しめたまへ又爾の目に善と見る所を彼になしたまへ三八 王い
 けるはキムハム我とともに濟り往くべし我爾の目に善と見ゆ
 る所をかれに爲ん又爾が望みて我に求むる所は皆我爾のため
 に爲すべしと三九 民皆ヨルダンを濟れり王渡りし時王バルジラ
 イに接吻してこれを祝す彼遂に己の所に歸れり四〇 かくて王ギ
 ルガルに進むにキムハムかれとともに進めりユダの民皆王を送
 れりイスラエルの民の半も亦しかり四一 是にイスラエルの人々
 皆王の所にいたりて王にいひけるは我儕の兄弟なるユダの
 人々何故に爾を竊みさり王と其家族およびダビデともなる其
 凡の従者を送りてヨルダンを濟りしやと四二 ユダの人々皆イス
 ラエルの人々に對へていふ王は我に近きが故なり爾なんぞ此事
 について怒るや我儕王の物を食ひしことあるや王我儕に賜物を
 與へたることあるや四三 イスラエルの人ユダの人々に對へていひ
 けるは我は王のうちに十の分を有ち亦ダビデのうちにも我は爾よ
 りも多有つなりしかるに爾なんぞ我らを輕したるやわが王を
 導きかへらんと言しは我最初なるにあらざやとされどユダの
 人々の言はイスラエルの人々の言よりも厲しかりき

第二〇章 爰に一人の邪なる人あり其名をシバといビクリの子
 にしてベニヤミン人なり彼喇叭を吹ていひけるは我儕はダビデ
 の中に分なし又エサイの子のうちに産業なしイスラエルよ各人
 其天幕に歸れよと是によりてイスラエルの人皆ダビデに隨ふ
 ことを止てのぼりビクリの子シバにしたがへり然どユダの人々
 は其王に附てヨルダンよりエルサレムにいたり三 ダビデ、エ
 ルサレムにある己の家にいたり王其遣して家を守らせたる妾な
 る十人の婦をとりてこれを一の室に守り置て養へりされどかれ
 らの處には入ざりき斯かれらは死る日まで閉こめられて生涯
 嫠婦にてすごせり四 爰に王アマサにいひけるは我ために三日の
 うちにユダの人々を召きたれしかして爾此處にをれ五 アマサ
 乃ちユダを召あつめんとて往たりしが彼ダビデが定めたる期
 よりも長く留れり六 是においてダビデ、アビシヤイにいひける
 はビクリの子シバ今我儕にアサロムよりもおほくの害をなさ
 んとす爾の主の臣僕を率ゐて彼の後を追へ恐らくは彼堅固なる
 城邑を獲て我儕の目を逃れんと是によりてヨアブの従者とケ
 レテ人とベレテ人および都の勇士彼にしたがびて出たり即ち
 彼等エルサレムより出てビクリの子シバの後を追ふ八 彼等がギ
 ベオンにある大石の傍に居りし時アマサかれらにむかひ來れり
 時にヨアブ 戎衣に帯を結て衣服となし其上に刀を鞘にをさめ
 腰に結びて帯び居たりしが其劍脱け墮ちたり九 ヨアブ、アマサ
 にわが兄弟よ爾は平康なるやといひて右の手をもてアマサの

鬚を將て彼に接吻せんとせしが○アマサはヨアブの手にある劍に意を留ざりければヨアブ其をもてアマサの腹を刺して其腸を地に流しだし重ねて撃に及ばざらしめてこれをころせりかくてヨアブと其兄弟アビシャイ、ビクリの子シバの後を追り二時にヨアブの少者の一人アマサの側にたちていふヨアブを助くる者とダビデに附従ものはヨアブの後に隨へとニアマサは血に染て大路の中に轉び居たり斯人民の皆立どまるを見てアマサを大路より田に移したるが其側にいたれる者皆見て立ちとまりければ衣を其上にかけたりニアマサ大路より移されければ人皆ヨアブにしたがひ進みてビクリの子シバの後を追ふ四彼イスラエルの凡の支派の中を行てアベルとベテマアカに至るに少年皆集りて亦かれにしたがひゆけり一五かくて彼等來りて彼をアベル、ベテマアカに圍み城邑にむかひて壘を築けり是は壕の中にたてりかくしてヨアブとともある民皆石垣を崩さんとてこれを撃居りしが一六一箇の哲き婦城邑より呼はりていふ爾ら聽よ爾ら聽よ請ふ爾らヨアブに此に近よれ我爾に言んと言へと二七かれ其婦にちかよるに婦いひけるは爾はヨアブなるやかれ然りといひければ婦彼にいふ婢の言を聽けかれ我聽くといふ一八婦即ち語りていひけるは昔人々誠に語りて人必ずアベルにおいて索問べしといひて事を終ふ一九我はイスラエルの中の平和なる忠義なる者なりしかるに爾はイスラエルの中にて母ともいふべき城邑を滅さんことを求む何ゆゑに爾

ホバの産業を呑み盡さんとするや二〇ヨアブ答へていひけるは決めてしからず決めてしからずわれ呑み盡し或は滅ぼさんとすることなし二其事しからずエフライムの山地の人ビクリの子名はシバといふ者手を擧て王ダビデに敵せり爾ら只彼一人を付せらば我此邑をさらんと婦ヨアブにいひけるは視よ彼の首級は石垣の上より爾に投いだすべし三かくて婦其智慧をもて凡の民の所にいたりければかれらビクリの子シバの首級を刎てヨアブの所に投出せり是においてヨアブ喇叭を吹ならしければ人々散て邑より退きておのおの其天幕に還りぬヨアブはエルサレムにかへりて王の處にいたれり三ヨアブはイスラエルの全軍の長なりエホヤダの子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長なり二四アドラムは徵募長なりアヒルデの子ヨシヤパテは史官なり二五シワは書記官なりザドクとアヒヤタルは祭司なり二六亦ヤイル人イラはダビデの大臣なり第二章一ダビデの世に年復年と三年饑饉ありければダビデ、エホバに問にエホバ言たまひけるは是はサウルと血を流せる其家のためなり其は彼嘗てギベオン人を殺したればなり二是ににおいて王ギベオン人を召てかれらにいへりギベオン人はイスラエルの子孫にあらずアモリ人の殘餘なりしがイスラエルの子孫昔彼等に誓をなしたり然るにサウル、イスラエルとユダの子孫に熱心なるよりして彼等を殺さんと求めたり三即ちダビデ、ギベオン人にいひけるは我汝等のために何を爲すべきか我何の

賠償を爲さば汝等エホバの産業を祝するや四ギベオン人彼にいひけるは我儕はサウルと其家の金銀を取じ又汝は我らのためにイスラエルの中の人一人をも殺すなかれダビデいひけるは汝等が言ふ所は我汝らのために爲ん五彼等王にいひけるは我儕を滅したる人我儕を殲してイスラエルの境の中に居留さらしめんとて我儕にむかひて謀を設けし人六請ふ其人の子孫七人を我儕に與へよ我儕エホバの選みたるサウルのギベアにて彼等をエホバのまへに懸ん王いふ我與ふべしと七されど王サウルの子ヨナタンの子なるメビボセテを惜めり是は彼等のあひだ即ちダビデとサウルの子ヨナタンとの間にエホバを指して爲る誓あるに因りハされど王アヤの女リツパがサウルに生し二人の子アルモ二とメビボセテおよびサウルの女メラブがメホラ人バルジライの子アデリエルに生し五人の子を取りて九かれらをギベオン人の手に與へければギベオン人かれらを山の上にてエホバの前に懸たり彼等七人俱に斃れて刈穫の初日即ち大麥刈の初時に死り〇アヤの女リツパ麻布を取りて刈穫の初時より其屍の上に天より雨ふるまでこれをおのれのために磐の上に布きおきて晝は空の鳥を屍の上にとらしめず夜は野の獸をちかよらしめざりき二爰にアヤの女サウルの妾リツパの爲しことダビデに聞えければニダビデ往てサウルの骨と其子ヨナタンの骨をヤベシレアデの人々の所より取り是はペリシテ人がサウルをギルボアに殺してベテシヤンの衢に懸たるをかれらが竊み

さりたるものなりニダビデ其處よりサウルの骨と其子ヨナタンの骨を携へ上りたりまた人々其懸られたる者等の骨を斂たり四かくてサウルと其子ヨナタンの骨をベニヤミンの地のゼラにて其父キシの墓に葬り都て王の命じたる所を爲り比より後神其地のため祈禱を聽たまへり五ペリシテ人復イスラエルと戰爭を爲すダビデ其臣僕とともに下りてペリシテ人と戦ひけるがダビデ困憊居りければニイシビベノフ、ダビデを殺さんと思へり（イシビベノフは巨人の子等の一人にて其槍の銅の重は三百シケルあり彼新しき劔を帶たり）七しかれどもゼルヤの子アビシヤイ、ダビデを助けて其ペリシテ人を撃ち殺せり是においてダビデの従者かれに誓ひていひけるは汝は再我儕と共に戰爭に出べからず恐らくは爾イスラエルの燈光を消さんと八此後再びゴブにおいてペリシテ人と戦あり時に復ゴブにてペリシテ人の子等の一人なるサフを殺せり九爰に復ゴブにてペリシテ人と戦あり其處にてベテレヘム人ヤレオレギムの子エルハン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せり其槍の柄は機の梁の如くなりき〇又ガテに戦ありしが其處に一人の身長き人あり手には各六の指あり足には各六の指ありて其數合せて二十四なり彼もまた巨人の生る者なりニ彼イスラエルを挑みしかばダビデに兄弟シメアの子ヨナタン彼を殺せり三是らの四人はガテにて巨人の生るものなりしがダビデの手と其臣僕の手にて斃れたり

第二章一ダビデ、エホバが己を諸の敵の手とサウルの手より救ひいだしたまへる日に此歌の言をエホバに陳たり曰くニエホバはわが敵わが要害我を救ふ者三わが磐の神なりわれ彼に倚頼むエホバはわが干わが救の角わが高櫓わが逃躲處わが救主なり爾我をすくひて暴き事を免れしめたまふ四我ほめまつるべきエホバに呼はりてわが敵より救はる五死の波濤われを繞み邪曲なる者の河われをおそれしむ六冥府の繩われをとりまき死の機檻われにのぞめり七われ艱難のうちエホバをよびまたわが神に頼れりエホバ其殿よりわが聲をききたまひわが嗾呼其耳にいりぬ八爰に地震ひ撼き天の基動き震へりそは彼怒りたまへばなり九烟其鼻より出てのぼり火その口より出て焼きつくしおこれる炭かれより燃いづ一〇彼天を傾けて下りたまふ黒雲その足の下にありニケルブに乗て飛び風の翼の上にあらはれニ其周圍に黑暗をおき集まれる水密雲を幕としたまふ三そのまへの光より炭火燃いづ四エホバ天より雷をくだし最高者聲をいだし五又箭をはなちて彼等をちらし電をはなちて彼等をうちやぶりたまへり六エホバの叱咤とその鼻の氣吹の風によりて海の底あらはれいで地の基あらはになりぬ七エホバ上より手をたれて我をとり洪水の中より我を引あげ一八またわが勁き敵および我をにくむ者より我をすくひたまへり彼等は我よりも強かりければなり一九彼等はわが雷災の日にわれに臨めりされどエホバわが支柱となり二〇我を廣き處にひきいだしわれを喜ぶ

がゆゑに我をすくひたまへりニエホバわが義にしたがひて我に報い吾手の清潔にしたがひて我に酬したまへり三其はわれエホバの道をまもり惡をなしてわが神に離しことなければなり三三その律例は皆わがまへにあり其法憲は我これを離れざるなり二四われ神にむかひて完全かり又身を守りて惡を避たり二五故にエホバわが義にしたがひ其目のまへにわが潔白あるに循ひてわれに報いたまへり二六矜恤者には爾矜恤ある者のごとくし完全人には爾完全者のごとくし二七潔白者には爾潔白もののごとくし邪曲者には爾嚴刻者のごとくしたまふ二八難る民は爾これを救たまふ然ど矜高者は爾の目見て之を卑したまふ二九エホバ爾はわが燈火なりエホバわが暗をてらしたまふ三〇われ爾によりて軍隊の中を驅とほりわが神に由て石垣を飛こゆ三二神は其道まつたしエホバの言は純粹なし彼は都て己に倚頼む者の干となりたまふ三三夫エホバのほか誰か神たらん我儕の神のほかたれいはいは神はわが強き堅衆にてわが道を全つし三四わが足を塵の如くなし我をわが崇邱に立しめたまふ三五神わが手に戦を教へたまへばわが腕は銅の弓をも挽を得三六爾我に爾の救の干を與へ爾の慈悲われを大ならしめたまふ三七爾わが身の下の歩を恢廓しめたまへば我踈ふるへず三八われわが敵を追て之をほろぼし之を絶すまではかへらず三九われ彼等を絶し彼等を破碎ば彼等たちえずわが足の下にたふる四〇汝戦のために力をもて我に帶しめ又われに逆ぶ者をわが下に拜跪しめたまふ四

一 爾わが敵をして我に後を見せしめたまふ我を惡む者はわれ之をほろぼさん二 彼等環視せど救ふ者なしエホバを仰視ど彼等に應たまはず四 地の塵の如くわれ彼等をうちくたき又衢間の泥のごとくわれ彼等をふみにちる四四 爾われをわが民の争闘より救ひ又われをまもりて異邦人等の首長となしたまふわが知ざる民我につかふ四五 異邦人等は我に媚び耳に聞と均しく我にいたがふ四六 異邦人等は衰へ其衛所より戰慄て出づ四七 エホバは活る者なりわが誓は讚べきかなわが救の誓の神はあがめまつるべし四八 此神われに仇を報いしめ國々の民をわが下にくだらしめたまひ四九 又わが敵の中よりわれを出し我にさからふ者の上に我をあげまた強暴人の許よりわれを救ひいだしたまふ五〇 是故にエホバよわれ異邦人等のうちに爾をほめ爾の名を稱へん五一 エホバその王の救をおほいにしその受膏者なるダビデと其裔に永久に恩を施したまふなり

第二章 一 ダビデの最後の言は是なりエサイの子ダビデの詔言即ち高く擧られし人ヤコブの神に膏をそそがれし者イスラエルの善き歌人の詔言二 エホバの靈わが中にありて言たまふ其諭言わが舌にあり三 イスラエルの神いひたまふイスラエルの誓われに語たまふ人を正く治むる者神を畏れて治むる者は四 日の出の朝の光のごとく雲なき朝のごとく又雨の後の日の光明によりて地に茁いづる新草ごとし五 わが家かく神とともにあるにあらずや神萬具備りて鞏固なる永久の契約を我になしたまへり

吾が救と喜を皆いかで生ぜしめたまはざらんや六 しかれども邪なる者は荆棘のごとくにして手をもて取がたければ皆ともにならねん七 之にふるる人は鐵と槍の柯とを其身に備ふべし是は火にやけて焼たゆるにいたらん八 是等はダビデの勇士の名なりタクモ二人ヤシヨベアムは三人衆の長なりしが一時八百人にむかひて槍を揮ひて之を殺せり九 彼の次はアホア人ドドの子エルアザルにして三勇士の中の者なり彼其處に戰はんとて集まれるペリシテ人にむかひて戰を挑みイスラエルの人々の進みのぼれる時にダビデとともに居たりしが一〇 たちてペリシテ人を撃ち終に其手疲て其手劍に固着て離れざるにいたれり此日エホバ大なる救拯を行ひたまふ民は彼の跡にしたがひゆきて只漚取而巴なりき二 彼の次はハラリ人アゲの子シヤンマなり一時ペリシテ人一隊となりて集まれり彼處に扁豆の満たる地の處ありペリシテ人のまへより逃たるに三 彼其地の中に立て禦ぎペリシテ人を殺せりしかしてエホバ大なる救拯を行ひたまふ三 刈穫の時に三十人衆の首長なる三人下りてアドラムの洞穴に往てダビデに詣り時にペリシテ人の隊レパイムの谷に陣どれり四 其時ダビデは要害に居りペリシテ人の先陣はベテレヘムにあり五 ダビデ慕ひていひけるは誰かベテレヘムの門にある井の水を我にのましめんかと六 三勇士乃ちペリシテ人の陣を衝き過てベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へ來れり然どダビデ之をのむことをせずこれをエホバの

まへに灌ぎて二七 いひけるはエホバよ我決してこれを爲し是は
 生命をかけて往し人の血なりと彼これを飲ことを好まざりき三
 勇士は是等の事を爲り一ゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイ
 は三十人衆の首たり彼三百人にむかひて槍を揮ひて殺せり彼
 其三十人衆の中に名を得たり一九 彼は三十人衆の中の最も尊き
 者にして彼等の長とたれり然ども三人衆には及ばざりき二〇エ
 ホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり多くの功績ありし者
 なり彼モアブの人の獅子の如きもの二人を撃殺せり彼は亦雪の
 時に下りて穴の中にて獅子を撃殺せり二 彼また容貌魁偉たる
 エジプト人を撃殺せり其エジプト人は手に槍を持たるに彼は杖
 を執て下りエジプト人の手より槍を抜とりて其槍をもてこれを
 殺せり三エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三十勇士の中に
 名を得たり三 彼は三十人衆の中に尊かりしかども三人衆には
 及ばざりきダビデかれを参議の中に列しむ四 三十人衆の中に
 はヨアブの兄弟アサヘル、ベレレヘムの子エルハナン五
 ハロデ人シヤンマ、ハロデ人エリカニ六 パルデ人ヘレツ、テコア
 人イツケシの子イラニ七 モアネトテ人アビエゼル、ホシヤ人メブン
 ナイニ八 アホア人ザルモン、ネトバ人マハライン九 ネットバ人パ
 ナの子ヘレブ、ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの
 子イツタイ三〇 ヒラト人ベナヤ、ガアシの谷のヒダイ三二 アル
 パテ人アビアルボン、バホリム人アズマウテ三三 シヤルボン二人エ
 リヤバ、キゾ二人ヤセン三三 ハラリ人シヤンマの子ヨナタン、ア

ラリ人シヤラルの子アヒアム三四 ウルの子エリパレテ、マアカ人
 ヘベル、ギロ人アヒトペルの子エリアム三五 カルメル人ヘツラ
 イ、アルバ人バアライ三六 ソバのナタンの子イガル、ガド人パニ
 ミモアンモ二人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者ベエロ
 デ人ナハライン三八 エテリ人イラ、エテリ人ガレブ三九 ヘテ人ウリ
 ヤあり都三十七人
 第二章 エホバ復イスラエルにむかひて怒を發しダビデを
 感動して彼等に敵對しめ往てイスラエルとユダを數へよと言し
 めたまふ二王乃ちヨアブおよびヨアブとともにある軍長等に
 いひけるは請ふイスラエルの諸の支派の中をダンよりベエルシ
 バに至るまで行めぐりて民を核べ我をして民の數を知しめよ三
 ヨアブ王にいひけるは幾何あるともねがはくは汝の神エホバ民
 を百倍に増たまへ而して王わが主の目を視るにいたれ然
 りといへども王わが主の此事を悦びたまふは何故ぞやと四 され
 ど王の言ヨアブと軍長等に勝ければヨアブと軍長等王の前
 を退きてイスラエルの民を核べに往り五 かれらヨルダンを濟り
 アロエルより即ち河の中の邑より始めてガドにいたりヤゼルに
 いたり六 ギレアデにいたりタテムホデシの地にいたり又ダニヤ
 ンにいたりてシドンに旋り七 またツロの城にいたりヒビ人とカ
 ナン人の諸の邑にいたりユダの南に出てベエルシバにいたり
 ハ彼等國を徧く行めぐり九月と廿日を経てルサレムに至りぬ九
 ヨアブ人口の數を王に告たり即ちイスラエルに劍を抜く壯士八

十萬ありき又ユダの人は五十萬ありき○ダビデ民の數を書し
 後其心自ら責む是においてダビデ、エホバにいふ我これを爲
 して大に罪を犯したりねがはくはエホバよ僕の罪を除きたまへ
 我甚だ愚なる事を爲りとニダビデ朝興し時エホバの言ダビデ
 の先見者なる預言者ガデに臨みて曰くニ往てダビデに言へ
 ホバ斯いふ我汝に三を示す汝其一を擇べ我其を汝に爲んとニ
 ガデ、ダビデの許にいたりこれに告てこれにいひけるは汝の地
 に七年の饑饉いたらんか或は汝敵に追れて三月其前に遁んか
 或は爾の地に三日の疫病あらんか爾考へてわが如何なる答を
 我を遣はせし者に爲べきかを決めよニ四ダビデ、ガデにいひける
 は我大に苦しむ請ふ我儕をしてエホバの手に陥らしめよ其
 憐憫大なればなり我をして人の手に陥らしむるなかれ五是に
 おいてエホバ朝より集會の時まで疫病をイスラエルに降した
 まふダンよりベエルシバまでに民の死者七萬人なりニ六天の
 使其手をエルサレムに伸てこれを滅さんとしたりしがエホバ
 此書惡を悔て民を滅す天使にいひたまひけるは足り今汝の手
 を住めよと時にエホバの使はエプス人アラウナの禾場の傍にあ
 りニ七ダビデ民を撃つ天使を見し時エホバに申していひけるは
 嗚呼我は罪を犯したり我は惡き事を爲たり然ども是等の羊群は
 何を爲たるや請ふ爾の手を我とわが父の家に對たまへとニ八此
 日ガデ、ダビデの所にいたりてかれにいひけるは上りてエプス
 人アラウナの禾場にてエホバに壇を建よニ九ダビデ、ガデの言に

隨ひエホバの命じたまひしごとくのぼれりニ○アラウナ觀望て
 王と其臣僕の己の方に進み来るを見アラウナ出て王のまへに地
 に伏て拜せりニかくてアラウナいひけるは何に因てか王わが
 主僕の所にきませるやダビデひけるは汝より禾場を買ひとり
 エホバに壇を築きて民に降る災をとどめんとてなりニアラウ
 ナ、ダビデにいひけるはねがはくは王わが主其目に善と見ゆる
 ものを取て獻けたまへ燔祭には牛あり薪には打禾車と牛の器あ
 りとニアラウナこれを悉く王に奉呈くアラウナ又王にねがは
 くは爾の神エホバ爾を受納たまはんことをといふニ四王アラウ
 ナにいひけるは斯すべからず我必ず値をはらひて爾より買と
 らん我費なしに燔祭をわが神エホバに獻ぐることをせじとダ
 ビデ銀五十シケルにて禾場と牛を買とれりニ五ダビデ其處にて
 エホバに壇を築き燔祭と酬恩祭を獻げたり是においてエホバ其
 地のために祈禱を聽たまひて災のイスラエルに降ること止りぬ